

授業評価・授業研究報告書

家政教育・藤田昌子

1. 授業の概要

(1) 対象授業の科目区分など

【対象授業の科目区分】

学校教育実践コース（家政教育専修）・
生活環境コース

【科目名】生活経営学（平成 25 年度入学～）
家庭経営学（～平成 24 年度入学）

【登録学生数】33 名（対象は 2 回生で，中学校家庭科および高等学校家庭科の教員免許の取得をめざす学生，コース選択科目として生活環境コースの学生が履修している。）

(2) シラバスに掲げられた授業の目的，到達目標，関連するディプロマ・ポリシー (DP)

【目的】生活者として当事者意識をもって多面的な視座から生活の実態を把握し，個人の生活と社会とのかかわりについて考えることを通じて，私たちの生活の背景にある現代社会の諸課題を客観的にとらえ，問題解決できる生活者としての知識と資質を身につける。

【授業の到達目標】

- 1) 私たちの生活の背景にある現代社会の諸課題を客観的に把握できる。
- 2) 1) で把握した諸課題の解決に必要な知識を理解し，説明できる。
- 3) 変化した生活環境・多様化した価値観のなかで，生活者として主体性のある意思決定の視点をもつことができる。

【ディプロマ・ポリシー】

DP1

教科・教職に関する確かな知識と，得意とする分野の専門的知識を修得している。

(知識・理解)

(3) 授業の方法，形態，内容の概要

- 第 1 回 生活経営学基礎論(1)
家政学とは，生活経営学とは
- 第 2 回 生活経営学基礎論(2)
現代の生活における諸課題
- 第 3 回 生活経済と生活経営①
生活資源とは，家計管理

- 第 4 回 生活経済と生活経営②
クレジットと多重債務
- 第 5 回 格差社会と生活経営① 社会保障①
- 第 6 回 格差社会と生活経営② 社会保障②
- 第 7 回 格差社会と生活経営③
ハウジングプアと住まう権利①
- 第 8 回 格差社会と生活経営④
ハウジングプアと住まう権利②
住生活のマネジメント
- 第 9 回 共生社会と生活経営①
共生社会の視点
- 第 10 回 共生社会と生活経営②
バリバラ珍百景レポート発表
格差社会と生活経営⑤
教育の貧困，学ぶ権利
- 第 11 回 格差社会と生活経営⑥
自分や仲間の働く権利を守る①
- 第 12 回 格差社会と生活経営⑦
自分や仲間の働く権利を守る②
- 第 13 回 男女共同参画社会と生活経営
ジェンダーバイアス
- 第 14 回 定期試験・振り返り
- 第 15 回 総括

学生が家庭生活や現代社会における諸課題について常に関心をもち，そして個人の生活が社会のあらゆる分野と関係・連動していることについての視野を広げ，当事者意識をもって個人の生活の背景にある現代社会の諸課題を客観的に把握できるようになるために，以下のような工夫した。

- ・シミュレーション，ロールプレイング，グループワーク，KJ法，ゲーム形式など参加型学習を多用する
- ・体験学習(アクセシビリティの検証)を行う
- ・VTRを多用する
- ・関連する新聞記事の収集・考察を行うなど

また，把握した諸課題を解決しようとする意識に繋がるように，そして生活者として主体性のある意思決定の視点をもつために，以下のような工夫をした。

- ・諸課題の具体的な解決策と解決事例を示す（新聞記事，VTR等）
- ・労働相談センターの相談員に，愛媛県における労働問題に関する現状と解決事例について講義していただく（第12回）。

（4）今年度，特に意識して取り組んだこと

これまででは，各回の授業のねらいは，授業のはじめに口頭で説明するだけであったが，毎回配布する授業シートに記載し，確認することで，学生がねらいを意識化し，授業の見通しがもつことができるようにした。さらに，毎回の授業の終わりには5段階で学生が自己評価を行うようにし，自分の学びを意識化できるようにした。そして，15回分の授業シートと配布資料を1冊にファイリングすることで，「生活経営学（家庭経営学）」の授業での学びを振り返りやすいようにした。

また，外部講師（労働相談センター相談員）の講義により，いっそう身近でリアルな現場の声を聞き，主体性がもてるようにした。

2. アンケート結果（自由記述）

①私たちの生活の背景にある現代社会の諸課題を客観的に把握できる。

②①で把握した諸課題の解決に必要な知識を理解し，説明できる。

・社会問題や実生活のなかで活かすことができる知識を知り，自分自身がどのように動くべきかを考えることができた。

・生活者として知っておくべき権利や保障，社会問題について知るとともに，解決する方法についても考えることができた。

・生活していく上で必要な知識をたくさん学んだ。毎授業知らないことばかりで，自分のことなのに何もわからなくて，とても怖いことだと思った。

・知ることによって何か行動に移すことができるかもしれないし，知ることが解決の第一歩だと思った。

③生活者として主体性の視点をもつことができる。（さらに，授業で得た知識を自分自身や家族，仲間などの生活に活かそうとしている。）

・「バリバラ珍百景を探そう」の実践でもあつ

たように，自分たちの身近な設備や環境に対して，当事者の視点をもちながら疑問点，改善点を考えていく活動が有意義だった。

・日頃バリバラを探すクセがついてしまった。今までは気づかなかったが，意識してみると，さまざまな場所にあり，バリアフリーに対して関心が薄かったと思った。

・アルバイトに関しての考え方はすごく変わった。前までは雇ってもらっているという思いが強く，迷惑をかけないという気持ちが強かったのと，あまり収入にこだわっていなかったけど，明細を確認したり，全て自分のせいとか思って無理に予定をつけることはしなくなった。

・今まで労働に対しての知識がなかったものが，この授業で少しでも知識を身につけたことで，特に労働に関しての意識が変化した。今までは言われたことをすんなり受け入れてきたが，きちんと自分の意思を伝えるという行動1つ1つが重要なのだと感じ，最近は自分の意見も少しずつ表に出せるようになった。

・アルバイトの労働時間を記録するようになった。

・今のバイトですごく不満を抱えているのだから，ただ辞めて逃げるのではなく，他のバイト仲間とも協力して，今の私のようにいやいや働く人がもう出なくてすむように，何か行動を起こしてみたい。

・今の社会が抱える問題や現状やその解決策を，そのことについてあまりよくわかっていない人たちに，この授業で学んだことを伝えていきたいと思う。

3. 総括

本授業の目標は，学生の自己評価，授業の振り返り，アンケートから概ね達成したといえる。特に，昨年度に比べ，主体的に行動しようとする（した）学生が多かったのは，外部講師活用の効果があったのではないかと考えられる。

本授業でもっと学びたかったことは，「特にない」が最も多かったが，次に「労働」に関するものが多くみられた。学生にとってより有意義な授業となるように，授業内容をさらに精査していくことを今後の課題としたい。